
音の鳴る地球儀

藤井 太陽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

音の鳴る地球儀

【Nコード】

N7751T

【作者名】

藤井 太陽

【あらすじ】

音楽と女の子を愛するお祭り好きの二人。
セックス、ドラッグ、ロックンロールにフォークにレゲエにブルースに。共に経験した出来事や事件が、それぞれをどう成長させるのか。いつまでも大人になれない青春物語。

音の鳴る日本 - 1

片付けも終わり店のシャッターを閉める。俺達はいつものコンビ二へ向かうと、ビールもどきのロング缶を買い、今夜はどこに飲みに行こうかと相談を始めた。

「今日は桜坂以外の場所で飲もう。」

俺はタクヤの提案に賛成した。

飲食店で働く俺とタクヤは、日曜日の閉店後、必ず二人で飲みに行く。いつの間にそうなったのかはわからないけれど、日曜日は二人だ。お客さんや、お互いの友人や女の子を交える事もなく、二人で飲みに行く。

俺もタクヤも、知り合う以前から桜坂と呼ばれる通りでよく飲んでた。でもお互いに行っていた店は不思議とバラバラで、店を紹介しあったり、お互いに気になっていた店に入ったり、そこが積極的なアニキの経営するゲイバーで圧力に恐れをなした俺はタクヤを置いて帰ったり、とにかく日曜日はそんな日だ。

ただ、今日は二人とも桜坂に行く気分じゃない。中途半端な知り合いに会うのが面倒なのかも知れない。

俺達は少し外れた道を歩き、以前から気になっていたバーに入った。

その店は民族楽器が並び、レゲエが流れ、黒人のマスターは何を訊ねても「イーンジャナイカ!？」と陽気に答えてくれる、ジャマイカンな感じのバーだった。

二人とも見慣れない民族楽器で遊び、酒を飲む。

すっかり社交的になった俺達はカウンターに座っている、ジャンベと言う名の太鼓を持った白人を見つけ、隣に腰をおろし、ジャン

べの技術に驚嘆し、教えてもらいながらうまい酒をたらふく飲んだ。
英語を話すタクヤが少し羨ましかった。

何でもこの白人は俺達と同じ25歳で、大道芸をしながらアジアを旅して4年目になるカナダ人。名前をショーンと言った。

俺達のように沖縄に移住してくる人間は、旅好きが多い。と、思う。

タクヤはアメリカに住んでいたときの事をあまり話したがらない。
俺が韓国に行ったのは、一人旅気取りのただの旅行だ。

台湾に行ったときのコトも、旅をしたという感覚にはなれない。
生活が出来ていたわけでもないし、あの寺の人達との出会いが無ければ、多分死んでいた。

小説家の誰かが、海外に住んでいる、住んだ事があるやつは、それだけで価値があると言う。乱暴な意見だし、お前何様だ！と若干思っけれど、俺も半分はそう思う。

だからこのとき、純粹にショーンを、カッコイイな、と思ったんだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7751t/>

音の鳴る地球儀

2011年6月3日16時54分発行